

令和 5 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特17						学校名	県立美浦特別支援学校							学校長名	鈴木 和子				
教頭名	加固 友衛						教頭名	那須 幸子							事務長名	大崎 百恵				
教職員数	教 諭	110	養 護 教 諭	2	栄 養 教 諭	1	常 勤 講 師	24	非常勤 講 師	6	実 習 助 手	2	寄宿舎 指導員	0	事 務 職 員	3	技 術 職 員 など	19	計	167
児童・ 生徒数	部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	小学部	12	10	16	6	11	13	13	4	12	10	11	7	75	50	29				
	中学部	19	10	16	12	18	9							53	31	18				
	高等部	25	11	14	21	21	14							60	46	19				

2 目指す学校像

- ◆ 自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行い、生きる力を育成する。
- 生き生きと学び、成長できる学校【元気で ⇒ 自立】

○ 互いを認め合い、尊重できる学校【なかよく ⇒ 尊重】

○ 地域から信頼される学校【たくましく ⇒ 貢献】

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学 校 経 営	○ 個別最適な学び・協働的な学びの充実 昨年度は、「資質・能力を伸ばす学習の充実」を重点項目とし、学習指導要領に示された各教科の資質・能力についての理解を深めつつ学習の充実を図ってきた。 ○ 社会に開かれた教育課程の視点に立った指導の充実 ・コロナ禍であったが、体験的な学習の時期や方法（オンラインの活用等）の工夫による指導の充実を図った。 ○ 豊かな心作りの充実 ・道徳や普段の様々な指導場面において、自己肯定感の育成及び向上を図ってきた。 ○ 地域への情報発信の工夫 ・交流及び共同学習等、オンライン等を活用しながら実践を行ってきた。 ○ センターの役割の充実 ・担当職員の専門性の向上を図りつつ、地域のセンター的役割をになった。 ○ 安全・安心な学校体制の強化・徹底 ・感染状況に留意し、各訓練実施内容等の工夫しながら実践することができた。 ○ 健康・体力の維持増進 ・制限のある環境下において、運動する機会を設け、健康・体力の維持向上を図ってきた。	・「個別最適な学び・協働的な学びの充実」のため、実態把握、評価、各教科と自立活動の関連性を整理し、個に応じた授業実践を行っていく。 ・系統的で段階的な取組、情報発信・理解・連携等、持続可能な取組を行っていく。 ・様々な学習や体験を通じて、自信を高め、他者を認めることのできる心作りを行っていく。 ・学校の適切な的確な情報発信、適正就学に向けた情報提供や連携強化を図っていく。 ・関係機関との良好な関係を維持しながら、相談・支援活動の迅速でさらなる充実を図る。 ・職員一人一人の危機意識と気づきの醸成を図り、安全・安心な学校体制の徹底を図っていく。 ・「けがのないじょうぶな体作り」のため、体力づくり、保健学習、関係機関との連携、整理整頓等による安全安心な学校環境整備等による健康・体力の維持増進を図る。

学習指導	○ 学校研究の推進 ・令和4年度は、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～各教科の授業を中心に～」というテーマのもと、ワークシートを活用しながら、学習指導要領の読み込みや授業の構想、実践などを行い、学習活動や指導の手立てなど、具体的に検討を進めることができた。 ○ 客観的な実態把握を踏まえた適切な目標及び指導内容の設定と学習評価の工夫 ・太田ステージ（H24年度より継続）、S-M社会生活能力検査（R3年度より全員実施）、自立活動チェックシートの作成などを通して、児童生徒の実態を客観的に把握し、授業や支援の方法などを検討する際に参考としている。 ・校務支援システムの導入に伴い、個別の指導計画の様式も変更となり、各教科等の目標については、資質・能力の三つの柱を踏まえて作成している。 ○ 情報教育 ・児童生徒用並びに教職員用のタブレット端末の整備が進み、授業や校務での活用に関する研修会を実施したことで、稼働率が高まり、多くの授業で活用されるようになってきた。 ○ 統合型校務支援システムの導入 ・入力や活用に向けてのデータの構築に取り組んでいる。	・今年度は、新しい個別の指導計画、校務支援システムの導入年度ということもあり、研究テーマも関連性のあるものにする。また、RPDCAの確立を目指した研究になるよう計画する必要がある。 ・S-M社会生活能力検査や自立活動チェックシートに関しては、作成する時間を研修日の中に位置づけるなどして、時間を確保していくことが必要である。 ・3観点評価を踏まえた授業づくりや学習評価の工夫、個別の指導計画への記入の仕方など、職員への研修が必要である。 ・継続して、電子黒板やタブレット端末、有効なアプリの紹介など研修を行い、授業等で活用する場を広げていくことが必要である。 ・職員向けの研修会を開催するとともに、対象学年の入力サポートを行う必要がある。
------	---	---

4 中期的目標

1 一人一人の障害の特性を把握し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画のカリキュラム・マネジメント基に、児童生徒が主体的に参加し、資質・能力を伸ばすことのできる学習の充実を目指す。 2 本人を中心に、家庭、地域、医療、労働、福祉などの関係機関との連携協力を密に図りながら、個々の実態や進路希望に応じた就労・生活支援の充実に努め、自らが望む自立と社会参加の実現を目指す。 3 相談支援の一層の推進・学校見学会・体験学習など地域のセンター的役割を積極的に果たすとともに、関係諸機関（幼稚園、保育所、保健センター、小中学校、高等学校、教育委員会、保護者など）との連携強化とネットワーク構築し、地域から信頼される学校づくりを目指す。 4 地域住民、学校評議員、などの外部意見や保護者の意見、提言等を取り入れるとともに、コミュニティスクール導入に向けた関係づくりから、社会に開かれた教育課程を推進し、地域とともにある学校づくりを目指す。 5 教員一人一人の思いや気づきを生かし、学校の設備・体制の整備・見直しを進め、健康で安全・安心な学校づくりを目指す。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 個別最適な学び・協働的な学びの充実	① 客観的な実態把握を踏まえた適切な目標及び指導内容の設定と学習評価の工夫、RPDCA サイクルによる授業改善
	② 実践的研究への取組による自立活動の充実
	③ 楽しい授業、分かる授業、個に応じた授業の実践：ICT の活用、指導方法等の工夫改善、ICT 活用指導力の向上
2 社会に開かれた教育課程の視点に立った指導の充実	④ 系統性を踏まえた計画的・段階的なキャリア教育及び進路指導の推進
	⑤ 企業や関係機関等への積極的情報発信による理解啓発と連携の強化
	⑥ SDG s の取組
3 豊かな心作りの充実	⑦ 道徳の授業及び道徳教育の実践による豊かな心の育成と気持ちのよいあいさつの励行、いじめの早期発見
	⑧ ほめて認めることによる自己肯定感と他者を認めることができる自分への高い信頼感の育成
4 地域への情報発信の工夫	⑨ 授業参観や情報発信等への工夫した取組と就学・転学・入学にかかる十分な情報提供
	⑩ 感染症対策を考慮した学校間交流、居住地校交流、地域交流等への取組
	⑪ 家庭及び関係機関との連携の強化
5 センターの役割の充実	⑫ 関係諸機関との連携を密にしたネットワークづくりの一層の推進
	⑬ 障害のある乳幼児・児童生徒及び保護者に対する相談・支援の一層の推進
6 安全・安心な学校体制の強化・徹底	⑭ 児童生徒及び教職員の事故防止に向けたヒヤリハット事例共有の徹底
	⑮ 食育指導の推進と食物アレルギーへの的確な対応及び摂食機能に応じた安全な食事指導への取組
	⑯ 緊急時及び感染症対策に対応した訓練等の実施と改善・充実
	⑰ 安全な通学の確保に向けたバス会社や保護者との連携
7 健康・体力の維持増進	⑱ 実態に応じた体力づくりや保健学習の推進と効果的な指導の工夫
	⑲ 専門家との連携と健康や安全への配慮による医療的配慮・医療的ケアを要する児童生徒の学校生活支援の充実
	⑳ 整理・整頓・清潔・清掃の推進